

大雪対策

大雪災害が発生した場合には公助だけでは対応が困難なことから、**自助・共助での取り組みが非常に重要**になります。まずは、家庭内や地域で大雪時の対応について話し合い、あらかじめ大雪に備えましょう。

車で外出する場合の備え

運転中に吹雪や地吹雪等により視界が悪くなったときや視界が真っ白になり何も見えない状況(ホワイトアウト)になった場合は、早めに停車帯やコンビニエンスストアなどへ移動しましょう。
雪道を運転する際には、スコップやバッテリーのブースターケーブル、スタック時のための牽引用ロープの他、事故などにより車に閉じ込められた場合に備え、防寒用にブランケットなども入れておくと安心です。車内で救助を待つときには、マフラー周辺に雪が積もったままエンジンをかけると、排気ガスが車の中に入り一酸化炭素中毒の危険性が生じるので原則エンジンを切りましょう。

路面凍結に注意

信号交差点

信号交差点のある箇所では、車が発進や停止を繰り返すことによって、圧雪や凍結路面が摩擦熱で解けて、タイヤとの間に水滴ができるため、路面が非常に滑りやすくなる場合があります。

橋梁(橋げた)

橋梁区間では、ほかの区間と異なり夜間には橋の下からも熱が奪われるので、路面の温度が低下しやすく、ほかの路面が凍っていないくても橋の上だけは凍結していることがあります。



トンネルなどの出入口

トンネルなどの出入口は日陰になることが多く、局所的に路面が凍結している場合があります。周囲が雪景色の場合には、トンネルの中と外での明るさが極端に異なることで状況が見えにくくなることを踏まえ、トンネル出入口付近での突然の路面変化に備え、走行には注意しましょう。

雪道の歩き方

踏み固められた雪の上は特に注意！！

・重心をやや前に、なるべく両手をあげて体のバランスを安定させることで転倒を防ぐことができます。
・急に走ったり、歩く速度を変えるときは特に滑りやすくなるので気を付けましょう。
降り積もった雪よりも踏み固められて圧雪や氷となった道のほうが滑りやすくなっています。そのため、たくさんの人や車が通る場所は特に注意が必要です。スニーカーや革靴、ハイヒールは雪道で滑りやすいためとても危険です。雪道では、撥水性・防水性に優れており、底が軟らかいゴム製で深い溝がある滑りにくい靴を履くことが大切です。

大雪が降った場合

除雪作業の注意点

雪かきスコップなどの除雪用具を用意しましょう。また、作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。県・町は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。

町民の皆さんは、**共助の精神に基づき自宅付近の除雪を行うなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください。**ただし、個人敷地内も含め、除雪した雪は事故やケガの元になりますので道路に出さないでください。

落雪に注意

屋根の雪が解けはじめ、**大きなかたまりになって落下する場合があります**。可能な限り屋根の雪を下ろすか、下に物を置かないようにしたり、通行者に注意を呼び掛ける表示をしましょう。歩行等通行中は足元に注意するとともに、頭上にも十分注意してください。



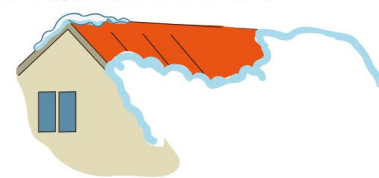
備蓄をしましょう

積雪により外出できなくなる場合に備え、水(1人1日3リットルが目安)、食糧、灯油等の備蓄を確認しましょう。特別な非常食に限らず、普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です(最低3日分・推奨7日分)。



外出は控えましょう

積雪時には不要不急の外出は極力控えてください。自動車等により雪が踏み固められると除雪が遅れ、交通障害の原因となります。



地域で助け合おう

近所に1人暮らしの高齢者や障がいのある方がいる場合は、地域で協力して助け合しましょう。



初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのめ方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。ホースをはずして火元に向ける。レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

火災警報器の設置義務化

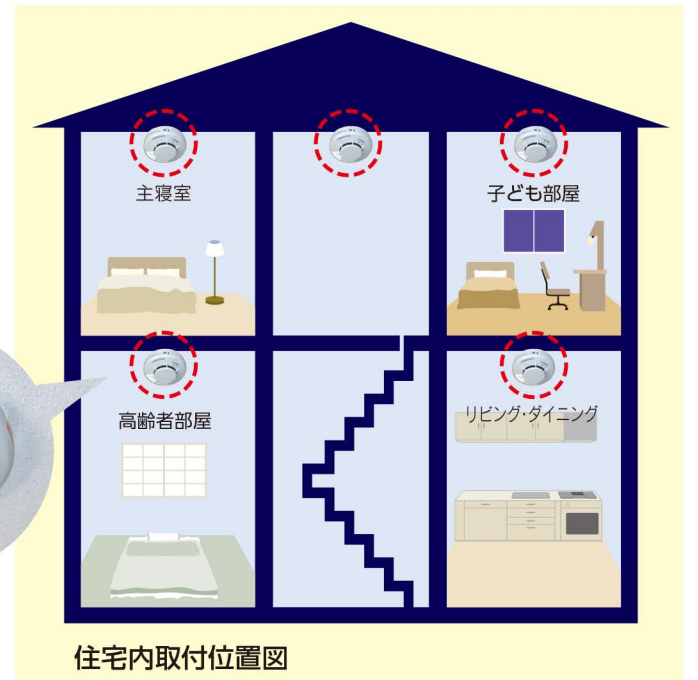
消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所への設置も必要です。

注意：住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年とされていますので、早めの交換をお願いします。



住宅内取付位置図